走れシノブ

仲里しのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
走れシノブ

【Ｎコード】
Ｎ１９８０Ｍ

【作者名】
仲里しのぶ

【あらすじ】
吹奏楽部員のシノブに事件が起こった。
停めてあった自転車にさしっ放しにしていた鍵がないのだ！
自転車の鍵だけを盗む、チャリ鍵泥棒登場。
はたしてシノブは鍵を取り返し、無事に帰ることができるのか？

（前書き）

オマージュ的なノリですが、ここまでひどくなったことをお詫び申し上げます。

シノブは激怒した。必ず自分の自転車の鍵を取った奴を許さないと。
シノブは吹奏楽部部員である。担当楽器はテューバ。重い楽器だから筋肉がついちゃって・・・
と部活の事を訊かれるとこう答えるものだった。
彼には、人の物を盗むということが、全く解らなかった。人の持つ物を奪うというのはひどく悲しい事だ、と教えられたわけでもなければ。盗みをやったらエンマ大王に舌を抜かれる、ばれた時の人間株価が下がる。なんて事を聞いたわけでもない。ただ、どんな理由があるにせよ、人の物を盗むという事は、絶対にしてはならぬ。そういうふうに、彼に刻み込まれてあるのだ。

その日シノブは、朝早くから部活の本番のめに、1．5里ほど離れた大きなホールに来ていた。他の学校の生徒と雑談をしたり、演奏を聴くなどと、楽しく時間を過ごした。
午後、自分たちの本番が近づき、心地よい緊張に包まれ、額に汗を浮かべた。本番が終わり演奏を聴き終え、学校に帰ろうとしていた矢先のことであった。シノブは、自転車の鍵がないことに気づいた。あわてるシノブ。が、一瞬にして自転車を停めた時急いでいたので、鍵を付けっぱなしにしていたのを思い出した。けれども自転車には鍵が付いていないのにも気付いた。
おかしい。確かに自転車を止めたときには、鍵はあったのだ。なのに今は無い。決して鍵を失くしたわけではないのだ。差したままにしていたのだから。シノブは分けもわからず、ただ口をポカンと開けたまま、ぼうっと自転車の鍵穴を見つめているだけだった。
他に異変がないか辺りを見渡したら、仲間がいないのに気付いた。みんな学校へと、向かってしまったのだ。シノブは焦った。自分も

急いで仲間に追いつかなくては、と。シノブは焦りを隠しつつ小走りした。動揺しているせいか、傍から見るとトイレを我慢している様に見える。向かった先は、トイレでなくホールの案内所だった。案内所で、

「すまんが、誰か鍵を知らないか」

大声で尋ねた。

「はい？」

一人の老爺が出て言った。

「だから鍵を知らないかと訊いているのだ！」

「残念だけど、今日の落し物は無いね。あきらめな」

老爺があっけなく言う。

「だまれ！そんなはずはない。きっと私の鍵を盗んだ誰かが、自分のした悪事に気付き、鍵をここに届けにきたはずだ！」

「だからそんなもんは無いって」

「いいやある！」

「ないのは無いんだ。帰れよ！」

「いや、帰らん！」

「無理言うなって！」

「無理ではない。本当にあるはずなのだ、命を賭けてもいい」

「命賭けんなよ、もったいないだろ。だけど本当に無いんだよ。帰れ！」

「いや、帰らん。というより帰れないのだ・・・」

「知らん。もう帰れ」

「うるさい、この分からずや！」

シノブは興奮した。興奮を抑えきれず、つい「くそジジィ」と洩らした。人生で初めての「くそジジィ」である。

結局、老爺からはなにも得られず、ただ怒り興奮し、顔を赤らめただけだった。

さてどうしたものかと、赤いそれを平手打ちしながら学校へと走った。

けれどもその時、自分の胸ポケットに光る鍵の存在をシノブは気づいていなかった。
自転車を停めた時、いつもズボンのポケットに入れてなくすので、今日は胸ポケットに入れておこうと決めていたのだ。シノブはアホだった。
その後シノブは、一人だけ汗だくで学校に着き、鍵だけ泥棒の悪態を皆に言い聞かせる。
そして、家に帰り着替えをしようとシャツを脱ぎ、金属の落ちる音を聞き赤面するだろう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1980m/

走れシノブ

2010年10月22日00時00分発行